

# トマト黄化葉巻病 (TYLCV)の被害拡大を阻止するために

## 【背景・目的・成果】

九州・東海等のトマト産地でトマト黄化葉巻病が蔓延。兵庫県でも平成18年に初めて発生しました。現地調査等で発生状況を確認したところ県南部6市1町で発生を確認しました。既発生地域で現地対策を行うと共に未発生地域に防除対策の情報提供を行いました。

## トマト黄化葉巻病とは



健全トマト

発病



媒介

媒介虫

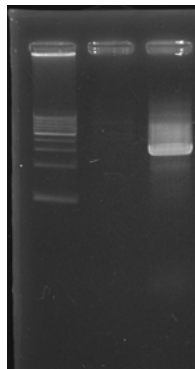
タバココナジラミ **トマト黄化葉巻病の発病トマト**



トマト黄化葉巻病は治療できない植物のウイルス病の1種です。タバココナジラミという微小な害虫(体長約0.8mm)が急速に媒介するため、防除が困難な病害です。

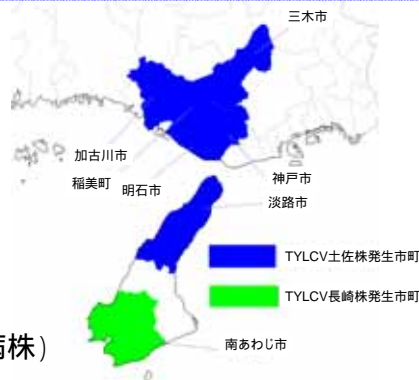
## 正確な診断で迅速な防除対策

### 遺伝子診断



(左からマーカー、健全株、罹病株)

### 現地調査等による発生地域の把握



### 発生地域での現地対策

- ・発病株の早期抜き取り
- ・媒介虫の薬剤防除
- ・防虫ネットの設置
- ・施設の蒸し込み処理など

### 発生地域・その周辺への情報提供



一般、市民農園等 生産者向け資料  
施設トマト生産者向け資料



施設トマト農家の対策だけでは不十分です。家庭菜園の株がウイルス感染源になることもあるため、一般市民への情報提供も行っています。

### 【技術の活用】

発生状況や防除対策の情報は各種生産者研究会、県庁ホームページなどで広域に提供しています。トマト黄化葉巻病の診断にはPCRと呼ばれる遺伝子診断法を用います。この技術を用い、高い農薬耐性を持つタバココナジラミのバイオタイプQの検定も行っています。